コレラは死病にあらず

上田兼吉編次

明治十五年八月廿八日 發兌

錦松堂
溫故社

コレラハ死病ヨあらず

東京　上田兼吉編

編者曰くコレラハ死病ヨ非すと云へバ人或ハ其妄誕なるを詰るかハ知らざれ共編者のコレラハ死病ヨあらすと云へるハ抑々故あるとにて以下條々ヨ記載せる豫防法を始めコレラ病とならざる一奇法消毒法等を服膺し嚴重ヨ之を行ひなバ假令該病に罹ると雖も九死を一生の中ヨ得ると難きヨ非さるなり因て本編を題してコレラハ死病ヨ非ずと云ふ請諒焉

此書編纂の大意ハ昨今都鄙ともヨ蔓延流行せる彼の六傳染病中尤も感染し易くして尤も恐るべきコレラの原因豫防法コレラ病とならざる奇法消毒法等の大略を婦女子等

よも解し易き様假名を以て叮嚀に書き記し掛け換えのなき貴重なる性命を該病の爲めに堕ざる爲にとの老婆心を以てものせしなり仰ぎ願くば本書御一覽の上余と心を同ふする人々い怠りなく隨分共に注意豫防あらんとと

○コレラ病の原因

コレラ病い如何なる病なるや未だ刀圭家に於ても究めざれ共其の最も信に近き說に據れば該病の根い肉眼に見えざる一種の毒虫にして此虫ゞ空氣に交り居り假令該病人近づかざる人にても少しく下痢を起す事あれば其下痢の誘ひを得て人の腹中に入り一瞬間に數十萬の子を繁殖し夫より腹中を荒して其人を斃すなうと云ふ去れば該病人に進づきたりとも其身養生よく殊に下痢の根

となる食物を食ざれゞ其虫誘ふ者なきか故に入ることなら ず或は入るを得るも腹中に子と繁殖すべき應援腐敗汚物の物なければ其虫遂に死で仕舞ふものなりと能く〳〵此理を考え生命を一つより外持ぬならば養生專一に心し給ふべし該病の傳染し初めい氣分に曉かも障りなく平生の通りの處へ〳〵ぴす〳〵位なら善がぴり〳〵ゞゞ〳〵と立下し下り此が爲め氣分い平生より晴々そるなり斯の如く下ると六七回に至れゞ彼の虫い既に服一杯に滿たる証據に夫より胸苦しきと覺え漸してゲロ〳〵を初むるなり既に此一段まで至てい最早限りなき愉快の人間世界を辭し茶瓶一片の煙とならざるを得ず豈悲しかしとずや故に縱令へ飲過か又い水を多く呑み其外食物の爲に覺えたりと知

るも此れ己よコレラの誘引となれば其節い速かよ醫師よ扨り診察を受け服藥して直し給へ依つて以下其豫防法療法消毒法等を記す努々注意よ怠り給ふなかれ

○コレラ病とならざる一奇法

左のコレラ病とならざる一の療治法い開業醫山川幸喜君の創めて試みる處の方法よて頗る奇効ありと云ふ今其の療法を記さんよコレラ病流行の際よ方りて頓かよ劇しき下痢一二回を發すれば直ちに芥子壹合を湯よ溶し腰湯十分間をなし壹反の木綿を三つよ引き裂き帶の如くよなして腰より膝胴までを緊しく捲き且つ肛門よ當る處をば能く壓定け平臥温覆して再び下痢せざる樣耐忍もべし此時嘔氣を催すとも苦しからぬ假令吐くよ至ると雖も嘔吐

い此病の本性よ非ぬ恐るゝよ足らず一心不亂よ耐忍る時い總身發熱して大ひよ發汗するものなり渴甚だしき時い少々づゝ湯茶を飲みて他の食物を食せず此くの如くすると輕症い十二時間重症い二十四時間を過ればコレラ病とならずして全快するものなり

抑々コレラの病たる暫時の間よ數回の暴瀉をなし生力沈衰るを本性とす故よ數種の良藥ありと雖も内服して其効を收むるの時間なし故よ藥力も深く恃むに足らず唯々此療法の最も恃むべきあるのみ下痢を耐忍ねるとい頗る難きとなる故に腰脚緊しく緊め肛門の壓定法を施す是れ此療術の目的なりと以上い山川君の多年此術を經驗して深く信ずる處ある由にて廣告せられたる療法なり

○コレラ豫防の心得

コレラ病流行の時にハ假令病者のある地へハ一二里隔れたり其病毒ハ己ヨ家内の一隅に潜伏り隱れ不養生の間隙あれば直に飛掛んとする者と思ひ此病流行時にハ銘々其心得にて一身を保護し油斷なく養生すべし養生とハ第一飯水第二食物第三掃除第四衣服第五發病初時の注意なり此ヨ一々其大略を述ぶべし

コレラの毒ハ重ヨコレラ病者の吐下物の中ヨ含り此吐下物を厠又ハ溝渠等ヨ捨る時ハ地中ヨ滲込み病毒の力十倍す此毒土地を浸透ケて井戸の水ヨ入り其水より人ヨ傳染もの誠ヨ多し此病を煩ふもの百人中七十八九人ハ必ず此飲水より傳染ものなり故ヨ此病を豫防するヨハ心を茲ヨ

用もべし

飲水は平生共ヨ努々粗忽ヨ心得べきヨ非ざれ共コレラ流行の時ヨハ別て心を用ひ少しハ遠く共井戸と撰て汲用もべし其水も一度沸騰て冷し用もるを善とす總て水を汲む度毎ヨ此水ハ吾を養ふ水か吾を病す水かと心を付べしコレラ病者ある地方ヨ近き井戸又ハコレラ病者ある地方を通りて流れ來る水道井戸などハ必ず汲べからず厠并溜などヨ近き所の井戸水ハ飲料ヨハ用もべからず呉々もコレラ病者ある近傍の水ハ飲水にハ勿論雑水ヨも用もるとなかれ

食物ハ丁寧ヨ煮たるものを良とす飯粥汁芋茄子冬瓜野菜など能く煮たるハ食して宜し何品にても少し腐敗て臭氣

あらゝ決して食ふ可からす又食物ゝ成や蒼蠅の附ぬ樣よすべし世間に往々ある事にて少し腐臭けれ共捨るゝ勿體なし迚食するゝ大ひなる思違ひなり食物を捨るゝ好き事にゝ非ざれ共食物ゝもとゝ命を繋ぐ爲のものなるに其食物の爲よ命を失ふゝ誠に馬鹿の限りなり故よ炎暑時や流行病ある時節にゝ一度に澤山の食餌を調製ずして手數ゝ懸る共成丈腐らぬ樣に注意すべし桃李西瓜眞桑瓜柿梨子なゝを多分よ食べば必ず害あり少しゝ苦しからされ共是等の品や鹽魚等ゝ成丈ゝ食ぬを良とす何品よ限らず少し少量よ食べし過さゝ必ず病ひを知るべし酒ゝ微醉食ゝ腹八分にとゝめし決して大酒大食すべからず又夜更にゝ決して飲食すべからず

掃除ゝ家の内をふき掃除するのみを思ふべからす先第一よ厠を奇麗にし可成ゝ毎日にも汲渡はせ度其上にも手が届けば防臭藥をまき第二よ溝井溜を綫ひ井ゝ泥水を溜ず流し清め下流し湯殿抔ゝ取別奇麗にして臭氣なき樣すべし此掃除を粗末にして捨置く時ゝコレラの毒其中よて澤山よ弊殖る故コレラの毒を畑よ作り置と同樣なり心を注て清潔にすべし

衣服ゝ何も別段の物を用ゐるよ及ばず度々洗濯し成丈垢付汗染ぬ者と用ゆべし涼敷夜ゝ猶更心付少し餘分よかけて寐ぬべし其々も寢冷感冒をせぬ樣よ心懸くべし常よ汗染ぬ木綿の服卷抔誠よ宜し○總てコレラ其他流行傳染病のおりし後よてゝ買求めて用ゆる共油斷すべからす必ら

す沸湯に浸して能く洗濯して後に用ゆべし

○輕症コレラの心得

コレラ病の初より輕き下痢を起す事多し故にコレラ流行の時下痢せば直に寢床に臥し粥を食ひ又は温き茶を飲み温湯にて腹と手足を温め直樣醫者に療治を乞ふべし早く療治を受る時は大抵は命も危からず全快も亦速かなり然るに若し等閑にして療治せざれば生時も立ぬ内に重症に成なり重症になる時は十に七八は命を失ひ又は避病院に入れざれば治し難きに至るなり若又貧困にして醫者を招くと能はざれば最寄の區醫又は郡醫あらば夫れに馳附一刻も早く療治を受くべし時過て後には何程上手の醫者にても最早療治すると叶はぬなり呉々も早く療治を受る法を肝要と

○重症コレラの心得方

コレラ病の些重き時は猶更速かに最寄警察署（分署なき所は最寄郡區役所又は長等に届出べし警察署郡區役所は直に出役ありて消毒をなし下さるゝなり病人は固より萬事醫者の指圖に任すべし家人の打寄て看病するは人情の常なれ共外々の病と違ひ消毒法行届ざる時は動もすれば看病する者に傳染易もの故に此心得はて看病有りたし家内にて此人一人の家内一同に替難しと云程の人病人を児舞共吐下物の世話抔はなすべからず又看病する人達迚も衣類より石炭酸水をふりかけ病人に近き若し他に出る時は必ず消毒を若替る方宜し前に述べ

る如くコレラの最初は平生の下痢と異なちず去共重症は
なれば白く濁り米汁汁は似たるものを下しても服痛を次
は嘔吐初め終は米泔汁物を大ひは吐き唯全身疲れ時々脚
の腓腸引吊て痛み手の指足の先抔引つり咽渇くなり夫よ
り一属重くなれば眼凹み皮膚皺を生し聲嗄れ又は全く聲
枯て出ず小便閉り胞窄迫眩暈して假死るなり故はコレラ
流行の時は方り一度はトッと水を降し腹は痛なき時はそ
ちこそと覺語用心専一なり

○消毒法

コレラ病の毒を消すはは石炭酸を第一とす故はコレラ病
者の吐下物はは必ず石炭酸水を混て毒を消し壺又は樽は
入れ官にて定められたる場所に運ひ焼捨又は深く埋べ

し田舍なとは官にて定られたる場所なき郷村はは水
道用水井戸人家を遠く離れたる場所を深く掘て埋むべし
決して平常の肥糞と混るとなかれ混る時は直はコレラの
蔓延る基となるなり此石炭酸水(石炭酸の五拾倍のもの)は
充分消毒の効あるものなり故はコレラ病者の虎子はは此
石炭酸水を茶呑茶碗は二抔入て大便せしめ下痢て後又一
抔を其大便はふりかけてよし厠はは一日は此石炭酸水を
茶漬茶碗は二三抔づゝ糞壺の中は蒔べし但し石炭酸水は
消毒藥には用ゐる共素人考えにて之を飲む時は大害あり
必ず注意して飲むとなかれ又此外に石炭酸硫酸鐵合劑と
云ふ消毒藥あり石炭酸水より直段安くして用ひて効あり

○コレラ病なき時はても硫酸鐵(一名綠礬)凡そ三四十匁を

氷五六合にて溶し厠の尿壺に入るれば臭氣忽ち消失て誠に
は良物なり是れ日々入るに及ばず臭氣立昇る時に前の通
り入れば宜し緑礬を至つて價格安きものなり然れ共此藥
は唯惡き臭を止る計りにて コレラの毒を消すの効能なし
故に防臭藥と云ふ平生用ゐて良し但しコレラの毒には益
なし此藥を入し尿の色黑青くなれども田畑の肥料に用ひ
て此効能大ひに増て能く田畑を肥すなりフラスなどにて
も此藥を入色黑青くなりし尿も農家にて一入賞美する由
なり
さて段々述たる通り此病も唯其身壹人の身躰に苦厄を受
るのみに非ず仮令輕症の者なりとも其吐下物にも必ず病
毒ある故に隱し置て若も吐下物の溝厠などに入て消毒の

法行届ざる時は直に一家に傳染一家より一町一村一郡に
及び全國に傳播かると宛然風上に火を放つと同樣なる故
用心すべきとなり己に去る十二年コレラ大流行の時越中
の國新川郡栃澤村の家數百戸石田村に二十戸なるがコレ
ラ病發て豫防せぬ故に栃澤村にて村中にて死する者三
百人生殘る者僅に二十三人石田村にて村中にて病
ざる者唯二人のみなりと實に聞くも傷敗事共なり
前條より段々コレラ病の恐るべきことを説明せしかど定て
了解せられしなるべし此恐敗事を曉りし上は豫防せねば
ならぬとも了解べし約て言へば此流行の時にはコレラ病者
ある地方へは成丈行ざ他の厠に入ず水を掬み食をひかへ
夜更しをせず房事を節減し酒宴杯を止め群集の場所へ立

寄す何事も皆流行病なくなりて後の事として用心するを第一とすお互ひに養生を能くして此流行病に罹ぬ樣に仕度ものなり又學校説教場劇場市場寄席旅店料理屋貸座敷抔總て人の多く入込所にてはコレラ流行の時より第一水を撰み少しもコレラ病家なき所より汲て飲料とし厠よりも必ず消毒藥を散べし又コレラ發らば速やかに其筋へ届出前條の消毒法を嚴重に行ふべし若此豫防を怠ればコレラ發るか又は隱し置蔓延時は豫防法を行ふよりも數千倍の損ありなるとれなれば偏に心を豫防法に盡れんことを願ふなんへ

明治十五年八月廿五日出板御届
同　八月廿八日出板發市
定價五錢

編輯兼出板人　東京府平民　上田兼吉
京橋區新湊町五番地

發兌　芝宮本町　綿松堂
京橋弓町　温故社

府縣大捌所　東京神田雉子町嚴々堂○木挽町窩宇堂○千葉立眞舍○茨城新聞社○土浦柳亘堂○仙臺大町木村文助○函館篠文堂○甲府徵古堂○大坂岡嶋興七其外處々

[illegible]

[illegible]

[illegible]

コレラは死病にあらず

上田兼吉編次

明治十五年八月廿八日發兌

溫錦堂
故松社

059296-000-9

特24-78

コレラは死病にあらず

上田　兼吉／編

M15

CBF-0155